九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学における知の公共化の取り組み ： 課題と今後の展望

吉田, 素文
九州大学大学院医学研究院 ： 教授 ： 医学教育学 | 九州大学医療系統合教育研究センター ： 業務主任 | 九州大学附属図書館 ： 副館長（付設教材開発センター兼任） | 九州大学大学院統合新領域学府 ： 教授 ： ライブラリーサイエンス専攻

https://hdl.handle.net/2324/25891

出版情報：2011-11-18
バージョン：
権利関係：

九州大学における知の公共化の取り組み
―課題と今後の展望―

大学出版部協会　2011年度編集部会秋季研修会
日　時：2011年11月18日（金）
会　場：西鉄イン福岡（会議室）
プログラム：講演会1（15：30～17：00 ）

吉田　素文　Motofumi YOSHIDA, MD, PhD(Medical Science)

九州大学
　大学院医学研究院医学教育学　教授
　医療系統合教育研究センター　業務主任
　附属図書館　副館長　（付設教材開発センター兼任）
　大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻　教授
Phone: 092-642-6186　　Fax: 092-642-6188
E-mail: motofumi@edu.med.kyushu-u.ac.jp

KYUSHU UNIVERSITY

自己紹介

- 昭和38年　福岡県大牟田市に生まれる
- 昭和63年　九州大学医学部卒業、第二外科入局
- ～平成2年　九大病院第二外科、福岡市民病院外科研修医
- 平成2-6年　抗癌剤の薬理学研究、MDアンダーソン癌センター留学
- 平成6-8年　早良病院（内科、外科140床）胃腸科外科

- 平成8年秋以降　九州大学医学教育学
- 平成10年　文部省高等教育局医学教育課（半年間）
  共用試験システムを提案した研究班に所属
- 平成14年以降　共用試験医学系OSCE関連の委員会に所属
  東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター
- 平成16年4月　九州大学医学教育学教授に赴任

- 平成20年10月　九州大学附属図書館副館長に併任
- 平成23年4月　統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻教授に併任
  附属図書館付設教材開発センター教授に併任

普段の業務

- 九州大学の教育関連事業の企画・実施
  - 医学部、大学院、病院
  - 病院地区の医療系学部
  - 全学、医学以外の領域
    - 教育改革企画支援室
    - 附属図書館副館長
    - 統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻（LSS）
    - 附属図書館付設教材開発センター

・・・・・・・ときどき学外で診療

附属図書館関連の業務

- 附属図書館
  - 電子ジャーナル専門委員会専門部会部会長
  - 学術情報リポジトリ専門委員会
- 統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
  - 設置に関する学内検討～文部科学省との折衝
  - 専任教員として「学習科学」、「コミュニケーション論」、「コミュニケーション演習」、「PTL1」を担当
- 附属図書館付設教材開発センター
  - 設置に関する学内検討～執行部との折衝
  - 知の公共化～教材の発信に関する著作権処理

私のスタンス

- 出発点は、外科医兼薬理学研究者
- 平成8年から医学部教育の開発・研究
- 平成16～18年にeラーニング関連教育GPの実施責任者
- 平成18年から全学の教育改革を併任
- 平成20年夏までは大学図書館の1ユーザー
- この3年間、大学図書館の運営に関わり関連大学院と全学的な教材開発支援事業に着手

お送りした抄録

- 九州大学における知の公共化の取り組み－課題と今後の展望－

- 人は、問題を解決するため、得られた情報をもとに知を創造する。そして、この知を情報として記録し、管理・提供することで、知が継承されていく。九州大学では、この知の創造・継承プロセスを踏まえ、知の公共化への取り組みを推進している。代表的な学術情報として「教材」と「研究成果物」を採り上げ、前者については、教材開発センターが平成２３年４月に附属図書館に設置された経緯を、後者については、機関リポジトリと出版との連携に関する具体的事項を紹介し、それぞれ検討する。

いただいた質問・コメント：その１

- 「知の公共化」の範囲をどう設定するのか。つまり、公共時空間ですが、空間として、学内に限るのか、地域に広げるのか、日本か、世界か。時間として、どのような先を見越しているか。

いただいた質問・コメント：その2

- 大学図書館の先をどう見越しているか。たとえば、10年後、20年後、50年後について。（これは、大学出版の先をどう見越すかと、密接な関連があるので。）

いただいた質問・コメント：その3

- 電子書籍と図書館の関係、たとえば電子書籍が図書館をどのように変えていくのかについてどのような予想をもっているのかについても触れていただければ嬉しいです。

いただいた質問・コメント：その4

- 機関リポジトリについては、大学出版部協会では、東京電機大学出版局の植村八潮氏が、『大学出版』81号（2010年3月）の「デジタルアーカイブの動向と出版の役割」で、否定的にではなく批判的に、本質的と思われる問題を指摘しています。具体的には、学術書の出版ではなされてきた編集過程における「信頼性の付与」が、現在のリポジトリには決定的に欠けている、等です。
- こうした点について、どのようにお考えになっておられるのか、ぜひおうかがいししてみたいと存じます。

私のスタンスから…

吃驚・反省・後悔・開直・前進

講演の目的

- 大学出版部協会　2011年度編集部会秋季研修プログラムの充実のため

- 「九州大学における知の公共化の取り組み」を出発点として、大学の教育・研究と大学図書館や出版との間に横たわる現在～将来における課題を共有し、その解決について検討するため

Contents

- Introduction（20分）
- 九州大学における「知の共有化」の取り組み
  - 「ライブラリーサイエンス」とは
  - 教材開発センターの任務と自分の担当
  - 学術情報リポジトリ
- Discussion（30分）

九州大学附属図書館の長期目標・理念

九州大学附属図書館要覧：P.1、平成21年9月

1. 大学図書館基準（昭和27年制定、昭和57年改定）が示す大学図書館の機能を第一の目標とする。即ち、大学における教育研究の基盤施設として、学術情報を収集・組織化・保管し、これを利用者の研究・教育・学習のための利用要求に対し効果的に提供することを目指す。

九州大学附属図書館の長期目標・理念

九州大学附属図書館要覧：P.1、平成21年9月

2. 電子化資料の整備を進めることを第二の目標とする。即ち、紙媒体での学術情報の創造・発信とその世界規模での共有という新たな機能を充実し、さらに昨今の急激な電子化・ネットワーク化の動きに対応して、オンラインジャーナルへのアクセスを確保するという情報配信機能の整備を図る。
3. 九州大学の新しい機能と組織に対応した大学図書館を構築・運営し、大学改革と活力ある大学づくりに積極的に寄与することを第三の目標とする。

大学図書館に求められる機能・役割

大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－、文部科学省学術情報基盤作業部会、平成22年12月

1．学習支援及び教育活動への直接の関与

ラーニング・コモンズなどによる学習支援や情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育に大学図書館が主体的に取り組むことが重要。

2．研究活動に即した支援と知の生産への貢献

学術雑誌、図書等研究を進めるうえで必要な情報を確保するために、e-Scienceなどの構築・運用にあたって大学図書館側からの貢献も期待。

今後、大学全体におけるリポジトリ事業の位置付けの明確化、大学図書館業務としての定着、システム構築と維持体制の整備などが課題。

3．コレクション構築と適切なナビゲーション

従来は教員に負うところが大きかった学術図書等のコレクション構築において、図書館職員の果たす役割も増大。

また、大学図書館には、多様な学術情報への的確で効率的なアクセスを確保することが求められており、例えばディスカバリーサービスのような、より適切で効果的なナビゲーションの在り方を検討することが重要。

4．他機関・地域等との連携並びに国際対応

大学図書館の役割を果たすためには、学内の多様な組織との連携の他、MLA連携や公共図書館との連携も重要。

また、大学の国際競争力向上の観点から、大学図書館においても、海外の大学図書館との連携や職員の国際対応能力の向上等を図ることが必要。

https://qir.kyushu-u.ac.jp/dspace/bitstream/2324/19702/1/president.pdf

大学図書館職員に求められる資質・能力

大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－、文部科学省学術情報基盤作業部会、平成22年12月

1. 大学図書館職員としての専門性

伝統的な知識と見識を基礎として、環境の変化に柔軟に適応し、大学における学生の学習や大学が行う教育研究に積極的に関与する専門性が必要。

2. 学習支援における専門性

各大学等において行われる教育研究の専門分野に関する知識も求められており、教育研究と密接に関わる業務を行う者は、従来の事務職員とは区別して位置付けを検討することが必要。

3. 教育への関与における専門性

大学図書館職員が、情報リテラシー教育に直接関わり、教員との協力の下に適切なプログラムの開発を行うことが課題。また、教員や学生とコミュニケーションを図りながら教育課程の企画・実施に関わることも必要。

4. 研究支援における専門性

研究者が文献に容易にアクセスできるように必要な情報資源を関連付けたナビゲーション機能及びディスカバリー機能を強化することが必要。また、機関リポジトリの構築や新たなサービスの開発など従来の専門性をさらに発展させることを期待。

https://qir.kyushu-u.ac.jp/dspace/bitstream/2324/19702/1/president.pdf

ライブラリーサイエンス専攻の設置

1） 情報の管理・提供の意義

- 情報の収集・活用により創造された知→記録され、継承・利用される→新たな知の創造　＝「知の創造・継承活動」
- "知の創造・継承プロセス"における情報の管理と提供⇒「ヒト」と「場」

2） 急速な情報化による社会の変容

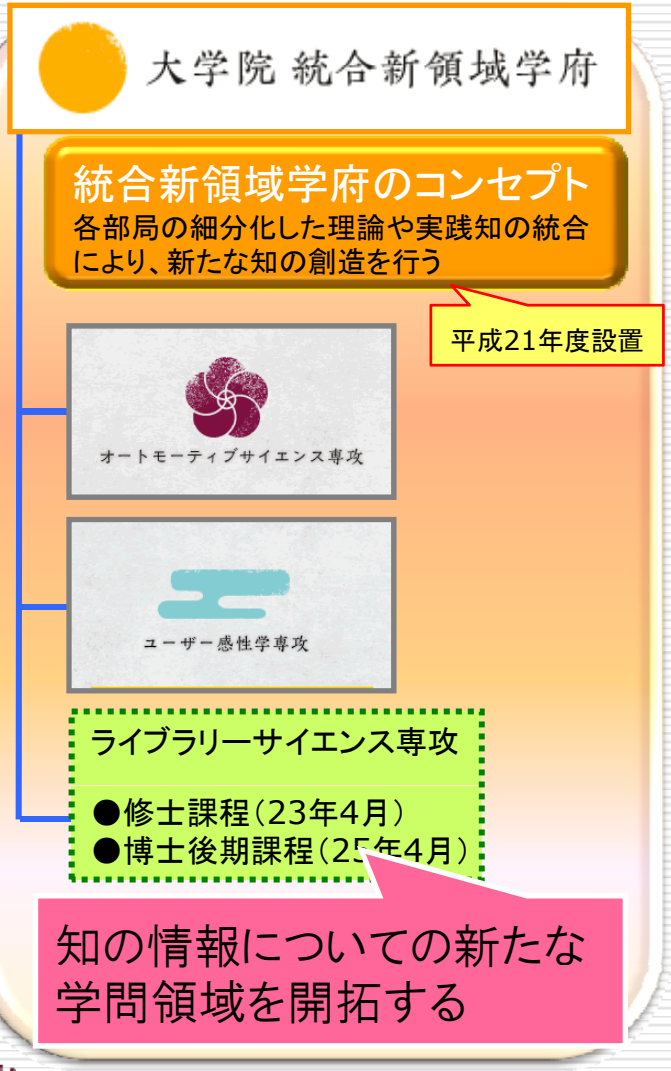
- 急速な情報化による以下のような新たな問題
  - 電子化された大量かつ流動的な情報の氾濫
  - ユーザーの要求：「必要な情報を効率的に」、「いつでもどこでも」
  - 最適な情報を評価・選別し提供を行うことが困難
  - 電子媒体の文書に関する法制面・流通面でのさまざまな課題

3） 高度情報化社会に求められる新たな人材

- ユーザーの知的活動を支え情報を管理し提供する人材
- 情報の管理と提供に対する新たな能力を持つ人材

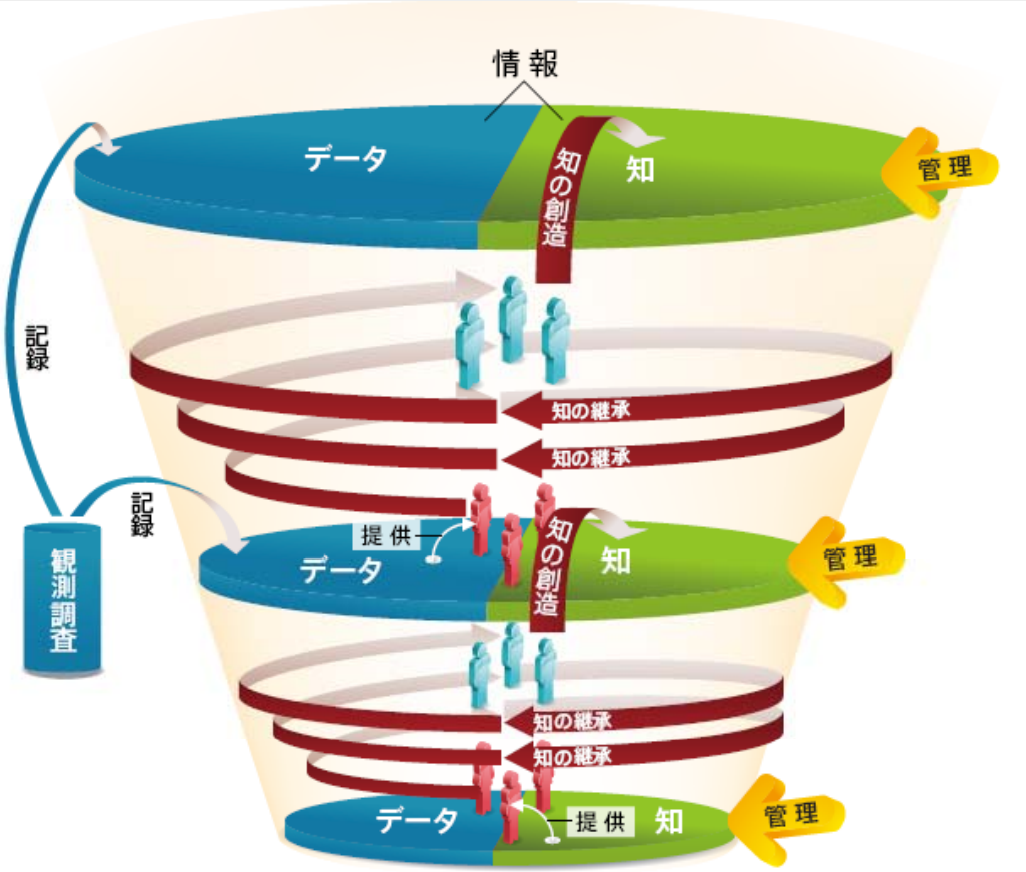
4） 本学に開設する意義

- 本学独自の学府・研究院制度の活用
- 人類・社会が抱える課題から科学を捉え直し人材を養成する統合新領域学府への配置
- 人材養成、学問領域の開拓の場として図書館、大学文書館を利用
  - 高度なサービス機能や電子リソースの整備、学びの場の提供で全国をリード（図書館）
  - 特色ある史資料の系統的な収集（付設記録資料館）
  - 大学史料の組織的集中的な保存、管理、提供（大学文書館）



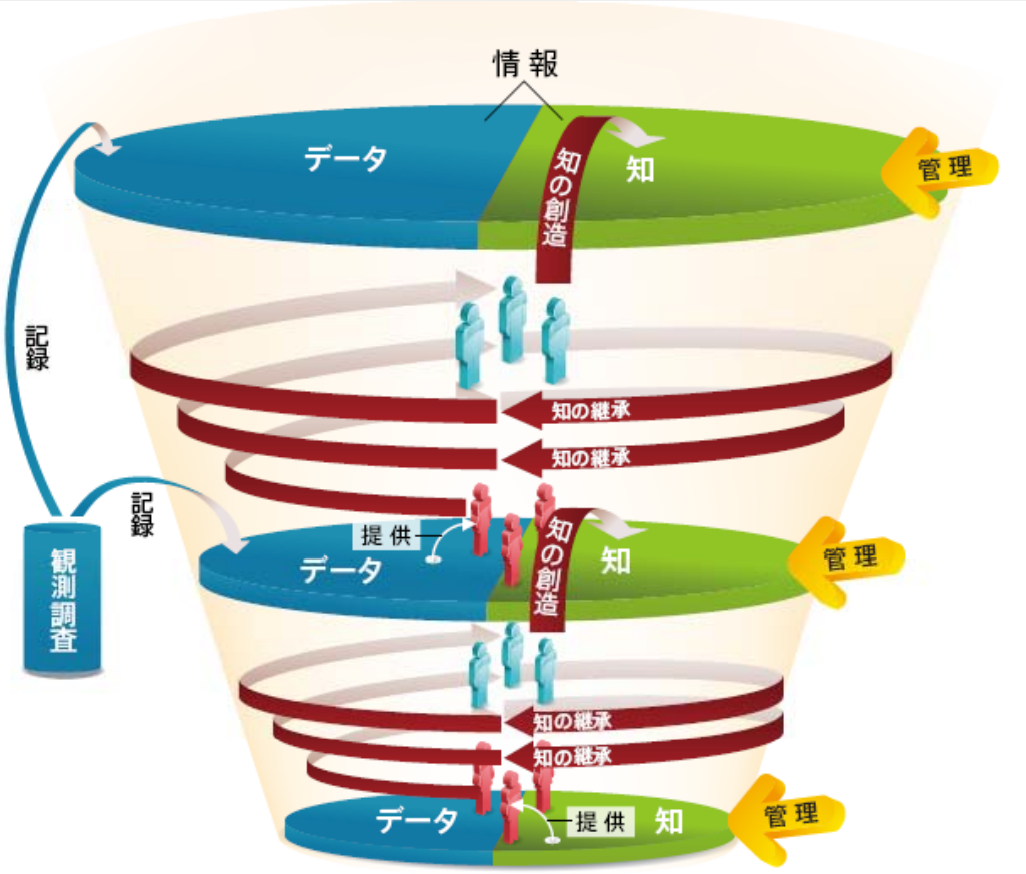
ライブラリーサイエンスとは

- ユーザーの視点に立った情報の管理と提供を確保し、同時に「知の創造と継承」を支えるあらたな「場」(これを「ライブラリー」と呼ぶ)を科学する。
- 情報の収集・活用により創造された知は、記録され、継承されてこそ、あらたな知の創造へと展開することができる。



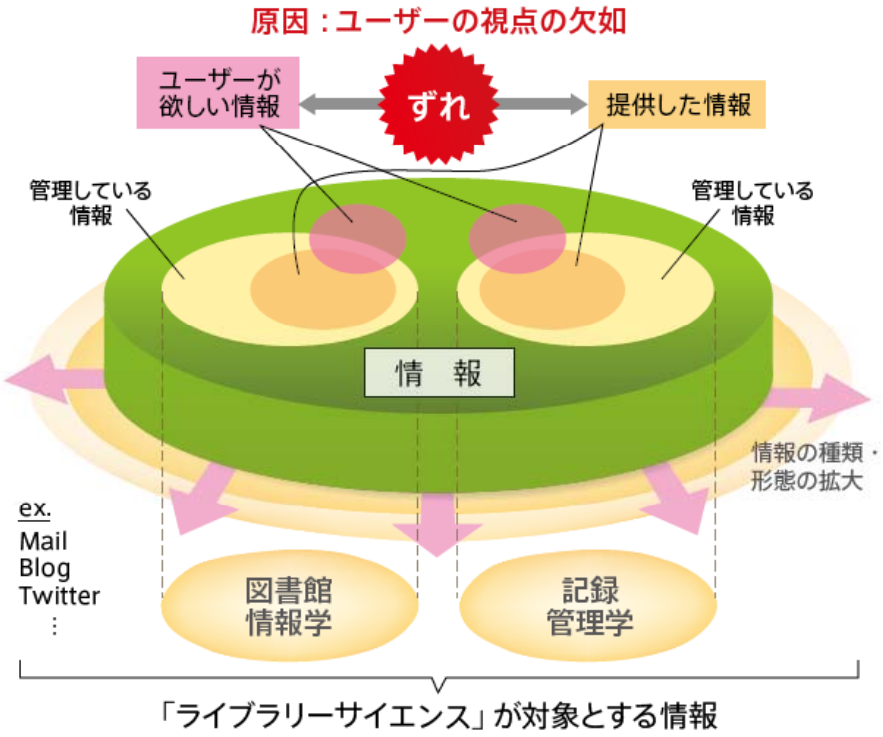
ライブラリーサイエンスとは

- ライブラリー＝図書館という固定観念を超えて、図書文献資料、文書記録資料（アーカイブス資料）等の別なく、統合された方法論にもとづき、情報管理・提供のあたらしいステージを開拓する。



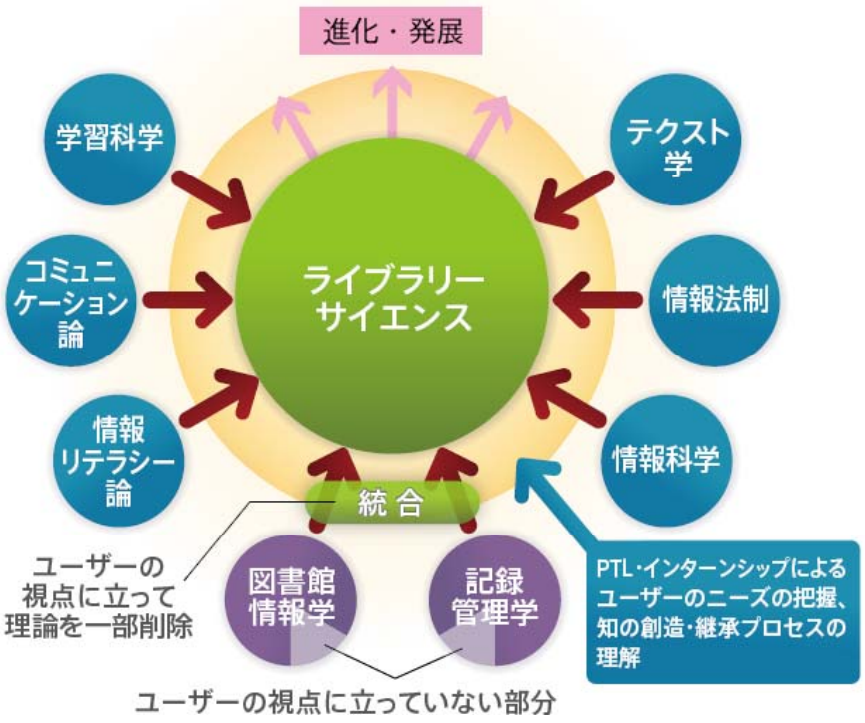
情報の管理・提供に関する科学

1. ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握し、ユーザーにとって意義ある情報の管理・ 提供を行うための能力の養成
2. ユーザーの多様な情報要求への対応
   - 図書館情報学における内容に基づく情報の体系化と、記録管理学での生成・利用の文脈に基づく情報の体系化の統合的活用
   - 情報科学的手法による内容に基づく情報の組織化
   - インターネット上の情報の膨大さと信頼性を考慮した利用への対応
3. 電子媒体に記録された情報を法制面や流通制度面で適切に対処できる専門職の養成



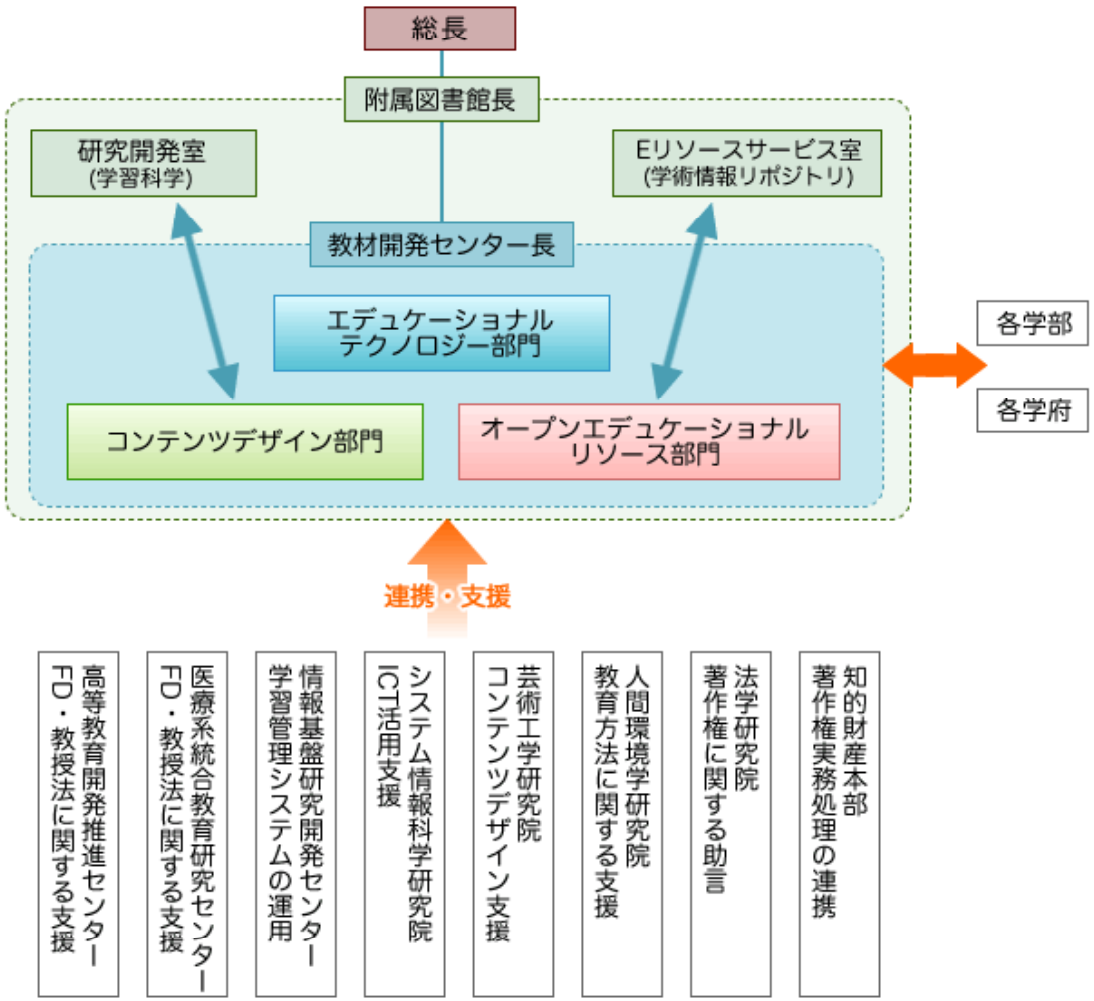
「ライブラリーサイエンス専攻」の理念と目的

1. ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
2. 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
3. 情報の管理・提供を実現するための、データエンジニアリングを含む情報通信技術の教育
4. 電子媒体の情報も対象とした、情報法制の現状ならびにその哲学に関する教育と流通制度に関する教育
5. これからの情報の管理・提供のあり方、知の創造・継承活動を支える「場」のあらたな機能などについて探求する能力を身につけさせる教育



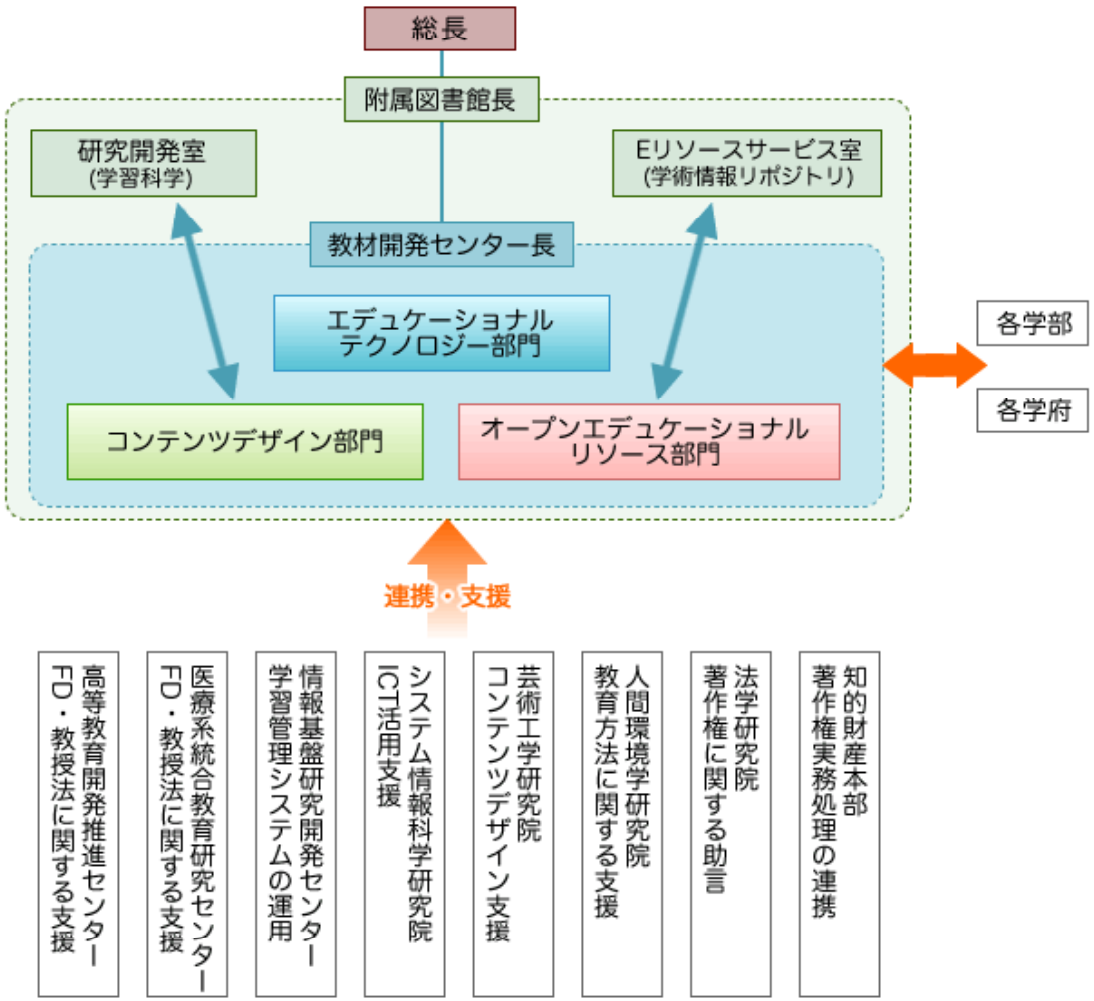
九州大学附属図書館付設教材開発センター
Innovation Center for Educational Resource：ICER

- インストラクショナルデザインに基づいた教材、教育方法を開発・適用し、協調型・学生主導型学習を推進することで、自律的な学習と実践力を育成する教育技術の普及と促進
- 双方向型3次元マルチメディアやゲーム性を活用した携帯端末やデジタル放送等の新技術に対応する教材コンテンツの開発を通して、学習意欲を高めるコンテンツの作成技法や作成効率を高める作成ツールを提供
- OCW、YouTube などを活用したオンデマンド学習の推進と、これら教育コンテンツ再利用のための著作権処理システムやSNSの活用を図ることで、学内外も含めた知の公共化と学びの共同体の醸成をリード



九州大学附属図書館付設教材開発センター
Innovation Center for Educational Resource：ICER

- インストラクショナルデザインに基づいた教材、教育方法を開発・適用し、協調型・学生主導型学習を推進することで、自律的な学習と実践力を育成する教育技術の普及と促進
- 双方向型3次元マルチメディアやゲーム性を活用した携帯端末やデジタル放送等の新技術に対応する教材コンテンツの開発を通して、学習意欲を高めるコンテンツの作成技法や作成効率を高める作成ツールを提供
- OCW、YouTube などを活用したオンデマンド学習の推進と、これら教育コンテンツ再利用のための著作権処理システムやSNSの活用を図ることで、学内外も含めた知の公共化と学びの共同体の醸成をリード



九州大学学術情報リポジトリ
https://qir.kyushu-u.ac.jp/

- 目的
  - 学内で生産された知的生産物を保存・公開
- 文献投稿者
  - 九州大学に在籍する、または在籍したことのある教員及び大学院生
- 効果
  - 研究成果のインパクト向上
  - 恒久的保存
  - 社会貢献・産学連携

QIRコンテンツの一例

QIR 九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

アイテム投稿ヘルプ
アイテム編集ヘルプ
言語切替／Change Language

九州大学

Google QIR Search Go

> ホーム

ブラウズ
> 組織別一覧
> タイトル
> 日付

> 新着情報サービス

> 文献の投稿
> ユーザ情報編集

> このサイトについて
> ヘルプ

文献を探す 検索
詳細検索

Kyushu University Institutional Repository (QIR) >
附属図書館 = Library >
附属図書館 = Library >

このアイテムのアクセス数：208件 (2011-11-18 0:00集計)

このアイテムへのリンクには次のURLをご利用ください：http://hdl.handle.net/2324/19755

このアイテムのファイル：

ファイル	記述	サイズ	フォーマット	
booklet.pdf	小冊子	500Kb	Adobe PDF	見る/開く

タイトル：他人の著作物を含む電子・オンライン教材の作成と利用に関するQ&A
著者：九州大学附属図書館 / 吉田, 素文
著者名ヨミ：キュウシュウダイガクフゾクトショカン / ヨシダ, モトフミ
著者名(別表記)：Kyushu University Library / Yoshida, Motofumi
著者情報：九州大学附属図書館副館長[吉田] / Kyushu University Library : Deputy Director General[Yoshida]
出版年：2011-03
刊行元：九州大学附属図書館
刊行元(別表記)：Kyushu University Library
言語：jpn
資料種別：小冊子
資料種別(NII基準)：Others
査読有無：unrefereed
内容記述：平成21・22年度　教育の質向上支援プログラム(EEP)「電子・オンライン教材作成支援プログラム」成果
目次：1.教材作成における他人の著作物の利用について/2.出所(出典)の明示について/3.英文雑誌に掲載された論文の図表、本文等に関する使用許諾の取得方法の一例
キーワード：オンライン教材 / 電子教材 / 著作権法 / 教材作成 / 他人の著作物 / Online Materials / Copyright Law
URL：http://hdl.handle.net/2324/19755
著者HP・刊行元HP：http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/
コレクション：附属図書館 = Library

アイテムの詳細レコードを表示する

このリポジトリに保管されているアイテムはすべて著作権により保護されています。

学術情報リポジトリ係から：その１

- 図書館は大学出版会と連携していきたい。
- リポジトリは、出版社と競合したり、従来の出版モデルを破壊するようなものではない。
- むしろ、連携することでお互いの強み・弱みを補いあえるのでは。

学術情報リポジトリ係から：その２

- 連携方法（例）
  - 絶版図書を機関リポジトリで公開
  - 機関リポジトリで電子版を公開し、印刷版を大学出版会からオンデマンドで発行
  - 冊子（大学出版会で発行）＋Webコンテンツ（機関リポジトリで公開）の教科書

- たとえばこんな連携体制で
  - リポジトリで公開する資料は出版会が選択
  - エンバーゴを設定
  - 著作権処理は出版会が行う
  - 電子ファイル化は図書館が行う
  - 図書館でメタデータを付与(＝各種検索エンジンでヒット)

いただいた質問・コメント：その１

- 「知の公共化」の範囲をどう設定するのか。つまり、公共時空間ですが、空間として、学内に限るのか、地域に広げるのか、日本か、世界か。時間として、どのような先を見越しているか。

いただいた質問・コメント：その2

- 大学図書館の先をどう見越しているか。たとえば、10年後、20年後、50年後について。（これは、大学出版の先をどう見越すかと、密接な関連があるので。）

いただいた質問・コメント：その3

- 電子書籍と図書館の関係、たとえば電子書籍が図書館をどのように変えていくのかについてどのような予想をもっているのかについても触れていただければ嬉しいです。

いただいた質問・コメント：その4

- 機関リポジトリについては、大学出版部協会では、東京電機大学出版局の植村八潮氏が、『大学出版』81号（2010年3月）の「デジタルアーカイブの動向と出版の役割」で、否定的にではなく批判的に、本質的と思われる問題を指摘しています。具体的には、学術書の出版ではなされてきた編集過程における「信頼性の付与」が、現在のリポジトリには決定的に欠けている、等です。
- こうした点について、どのようにお考えになっておられるのか、ぜひおうかがいししてみたいと存じます。

講演の目的を振り返る

- 大学出版部協会　2011年度編集部会秋季研修プログラムの充実のため

- 「九州大学における知の公共化の取り組み」を出発点として、大学の教育・研究と大学図書館や出版との間に横たわる現在～将来における課題を共有し、その解決について検討するため